

# 昭島市 市民意識調査

## 概 要 版

市民意識調査概要版は、平成21年10月に実施した「昭島市 市民意識調査」を要約したものです。

### <調査の概要>

(1) 調査地域	昭島市全域
(2) 調査対象	昭島市在住の満16歳以上の個人
(3) 標本数	1,000人（男女各500人）
(4) 抽出方法	昭島市住民基本台帳に基づく層化二段無作為抽出法
(5) 調査方法	郵送留め置き・訪問回収法
(6) 調査期間	平成21年10月17日～11月1日
(7) 有効回収率	84.2%

### <調査項目>

(1) 定住意向	(8) 都市景観
(2) 暮らしの満足度	(9) 少子高齢化
(3) 災害対策	(10) 広報
(4) 昭島の水道	(11) 情報化
(5) 日常生活	(12) 男女共同参画
(6) 地域活動・生涯学習	(13) 市政・市役所
(7) 環境	

平成22年1月

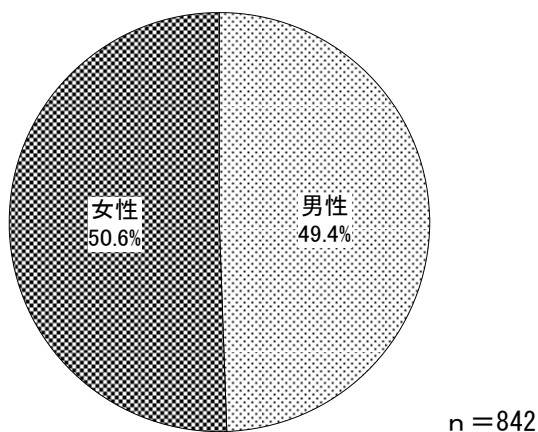
昭 島 市

※本概要版を見る際の注意事項

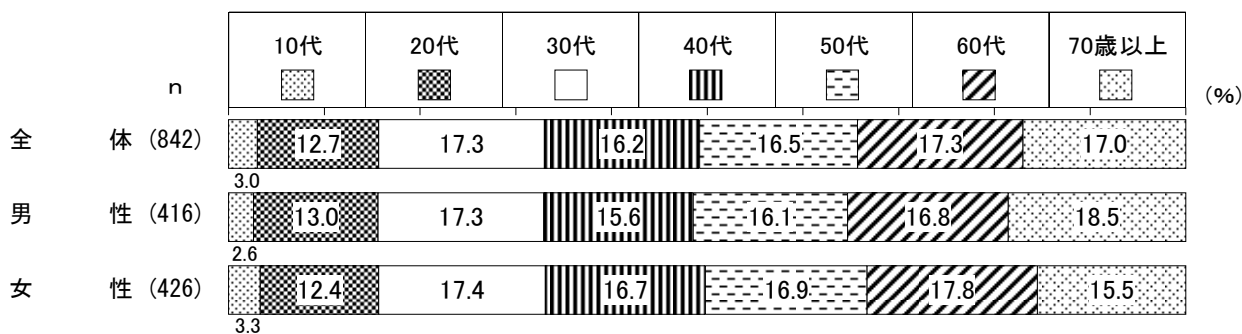
- (1) 集計は小数第2位を四捨五入して算出した。したがって、数値の合計が100%にならない場合がある。
- (2) 回答の比率 (%) は、その設問の回答者数を基数nとして算出した。したがって、複数回答の設問は、すべての比率を合計すると100%を超えることがある。
- (3) 本文やグラフ・数表上の選択肢表記は、場合によっては語句を簡略化してある。
- (4) n (Number of Casesの略) は比率算出の基数であり、100%が何人の回答者数に相当するかを示す。

## <調査回答者の属性>

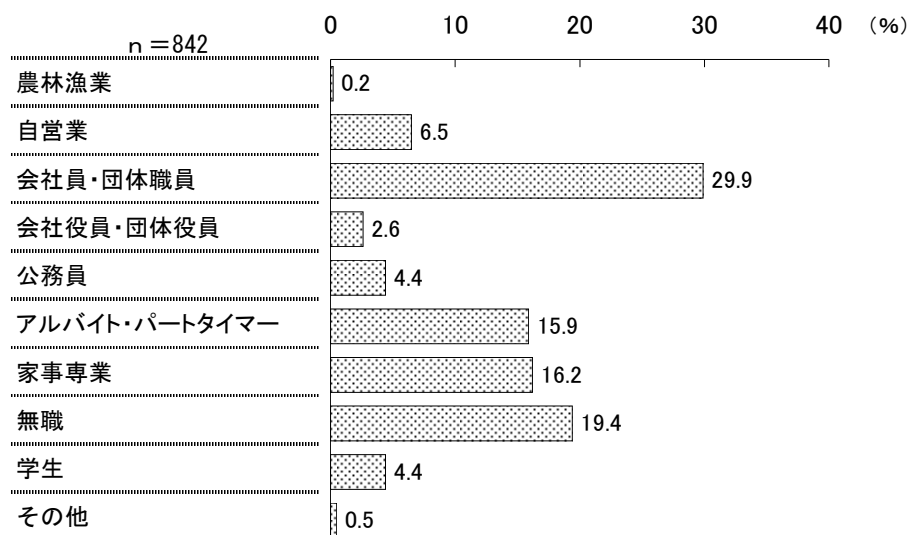
### 【性別】



### 【性・年代】



### 【職業】



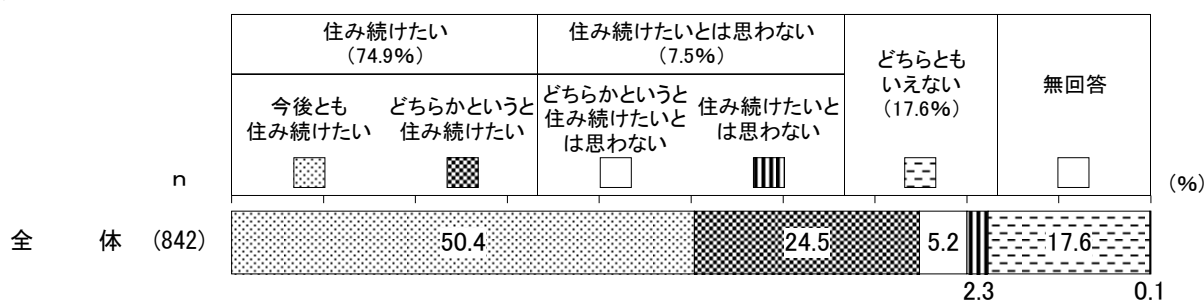
# 1. 定住意向

## (1) 居住年数



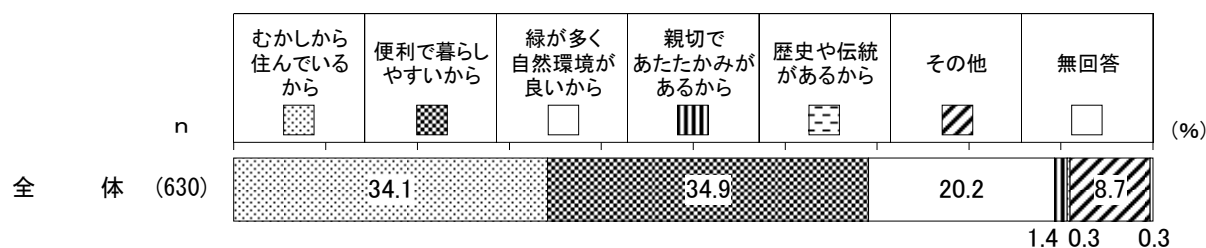
- 「3年未満」(9.0%)と「3年～5年未満」(3.6%)を合わせた『短期居住者』(12.6%)が1割を超え、「5年～10年未満」(13.2%)と「10年～20年未満」(17.0%)を合わせた『中期居住者』(30.2%)が3割となっている。また、「20年以上」の『長期居住者』(57.2%)が過半数を占めている。

## ★2) 定住意向



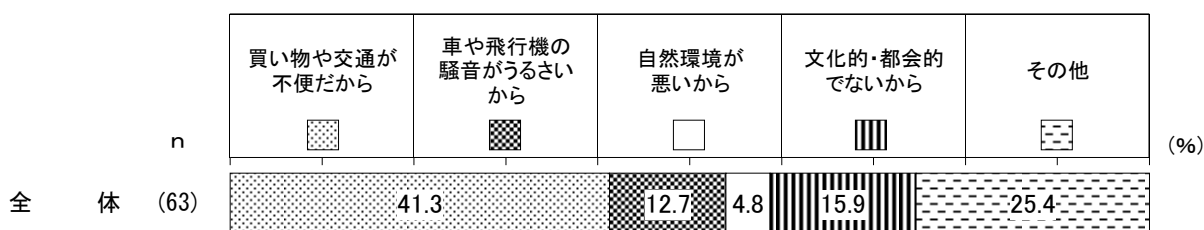
- 「今後とも住み続けたい」(50.4%)と「どちらかというと住み続けたい」(24.5%)を合わせた『住み続けたい』(74.9%)が7割半ばとなっている。また、「どちらかというと住み続けたいとは思わない」(5.2%)と「住み続けたいとは思わない」(2.3%)を合わせた『住み続けたいとは思わない』(7.5%)が1割未満、「どちらともいえない」(17.6%)が2割近くとなっている。

## (3) 住み続けたい理由



- 「便利で暮らしやすいから」(34.9%)が3割半ばと最も多く、次いで「むかしから住んでいるから」(34.1%)、「緑が多く自然環境が良いから」(20.2%)などの順となっている。

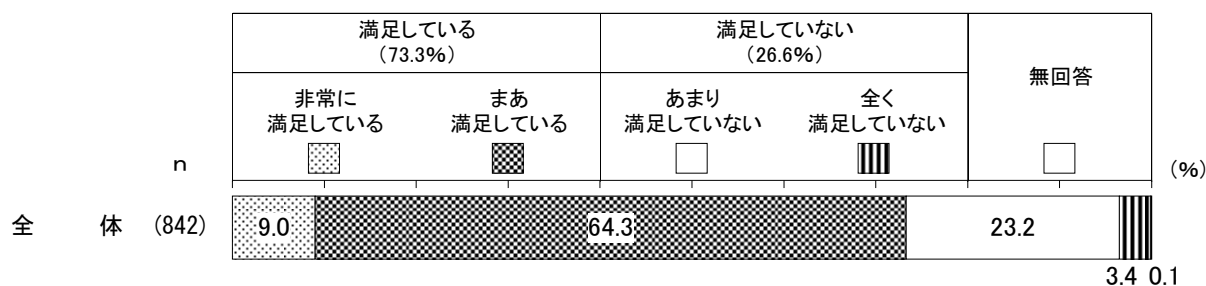
## (4) 住み続けたいとは思わない理由



- 「買い物や交通が不便だから」(41.3%)が4割を超え最も多く、次いで「文化的・都会的でないから」(15.9%)が1割半ば、「車や飛行機の騒音がうるさいから」(12.7%)が1割を超えている。また、「その他」(25.4%)が2割半ばとなっている。

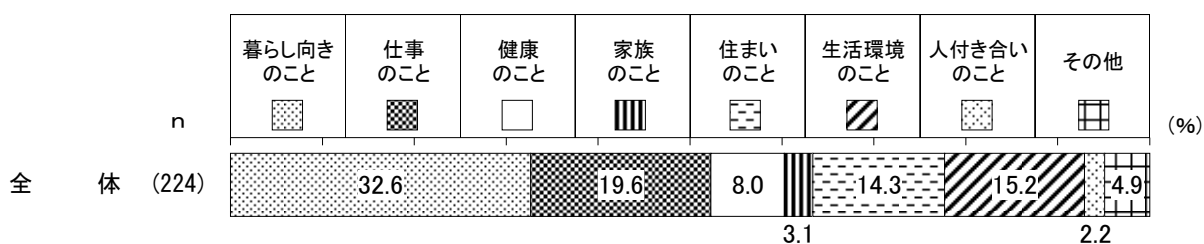
## 2. 暮らしの満足度

### (1) 暮らしの満足度



- ・「まあ満足している」(64.3%)が6割半ばと最も多く、これに「非常に満足している」(9.0%)を合わせた『満足している』(73.3%)が7割を超えている。一方、「あまり満足していない」(23.2%)と「全く満足していない」(3.4%)を合わせた『満足していない』(26.6%)が3割近くとなっている。

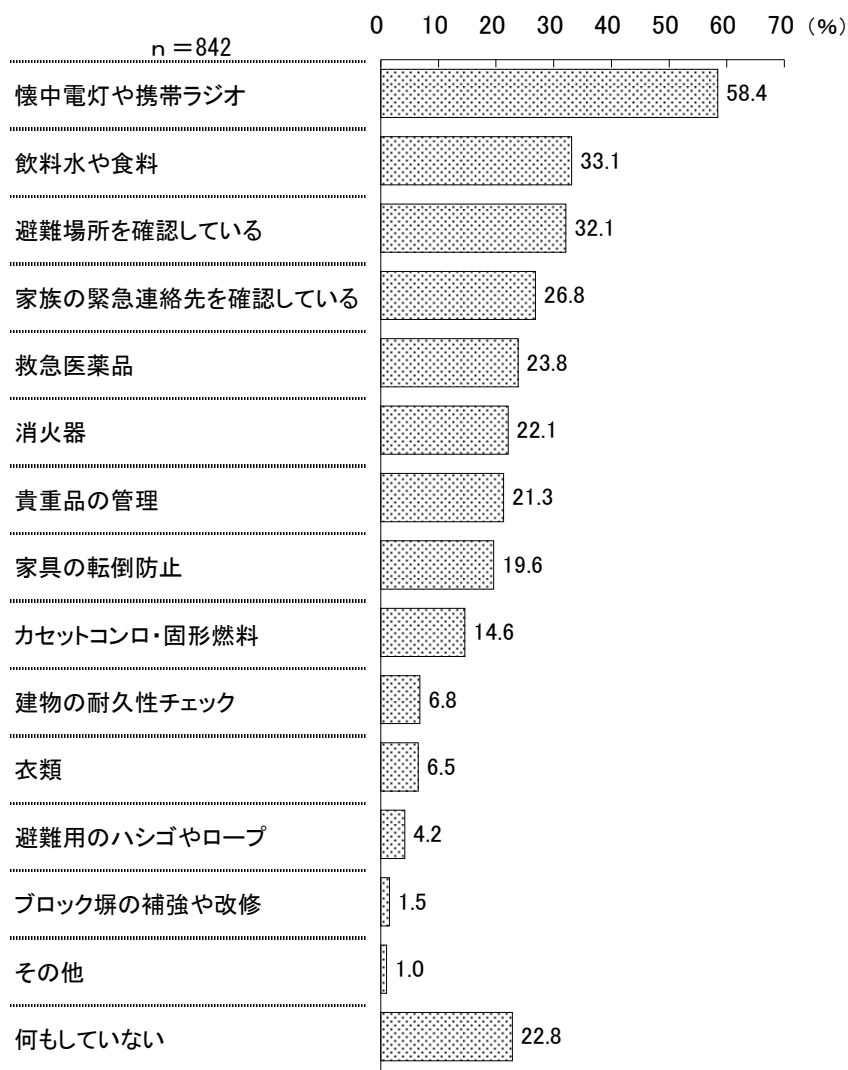
### (2) 満足していない理由



- ・「暮らし向きのこと」(32.6%)が3割を超え最も多く、次いで「仕事のこと」(19.6%)、「生活環境のこと」(15.2%)、「住まいのこと」(14.3%)などの順となっている。

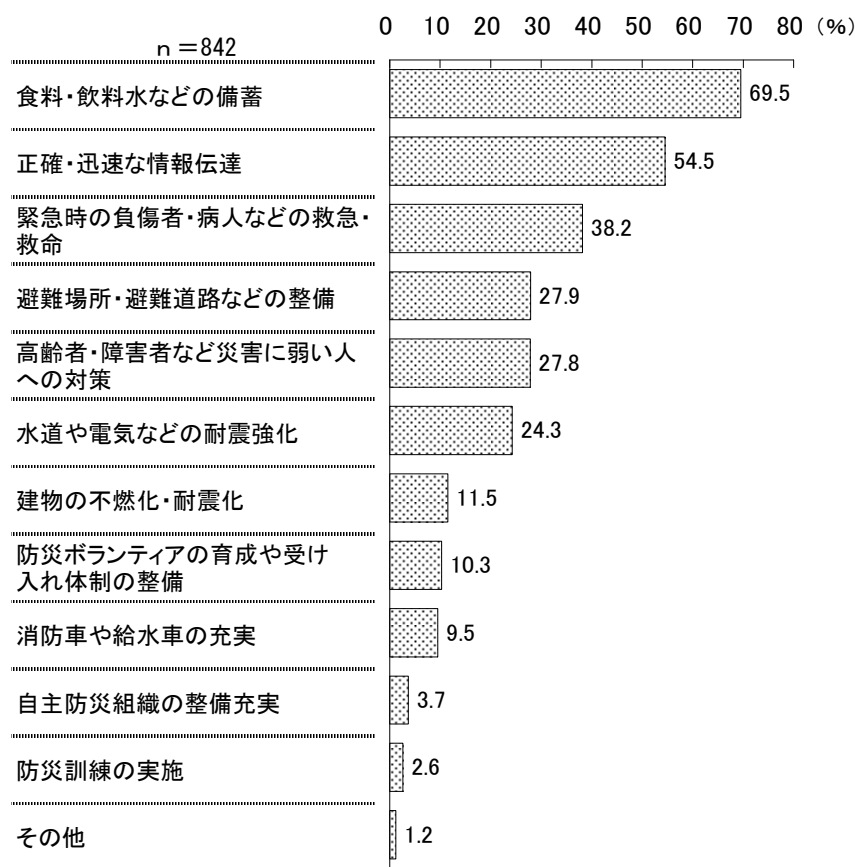
### 3. 災害対策

#### (1) 災害に対しての備え



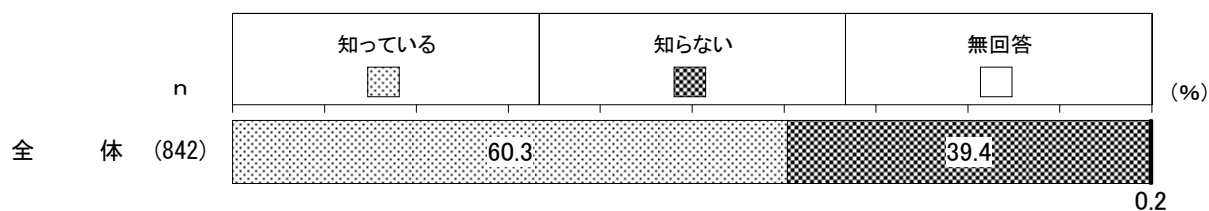
- 「懐中電灯や携帯ラジオ」(58.4%)が6割近くと最も多く、次いで「飲料水や食料」(33.1%)、「避難場所を確認している」(32.1%)、「家族の緊急連絡先を確認している」(26.8%)、「救急医薬品」(23.8%)などの順となっている。

## (2) 市の災害対策



- ・ 「食料・飲料水などの備蓄」(69.5%) が7割と最も多く、次いで「正確・迅速な情報伝達」(54.5%)、「緊急時の負傷者・病人などの救急・救命」(38.2%)、「避難場所・避難道路などの整備」(27.9%)、「高齢者・障害者など災害に弱い人への対策」(27.8%)、「水道や電気などの耐震強化」(24.3%)などの順となっている。

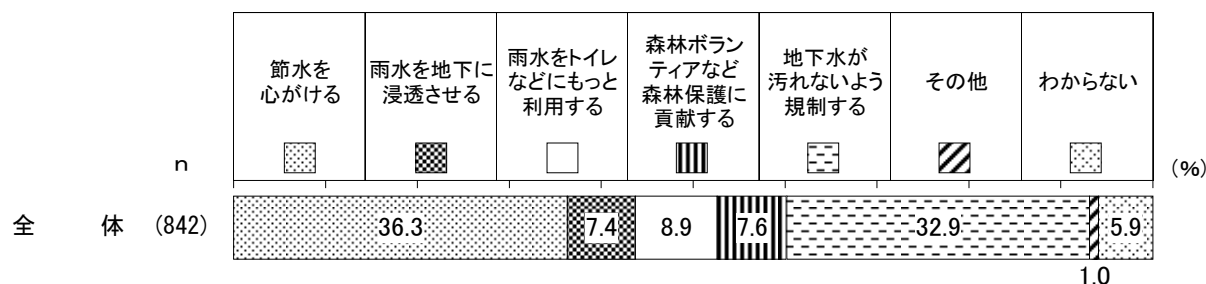
## (3) 消防団の認知度



- ・ 「知っている」(60.3%) が6割、「知らない」(39.4%) がほぼ4割となっている。

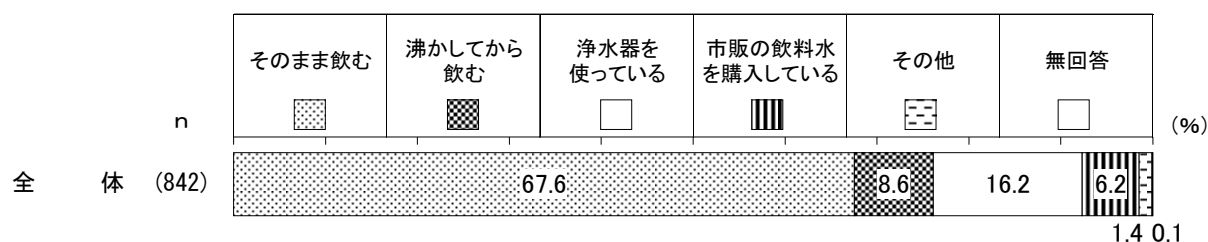
## 4. 昭島の水道

### (1) おいしい水を供給するために必要なこと



- ・「節水を心がける」(36.3%)が3割半ばと最も多く、次いで「地下水が汚れないよう規制する」(32.9%)、「雨水をトイレなどにもっと利用する」(8.9%)、「森林ボランティアなど森林保護に貢献する」(7.6%)、「雨水を地下に浸透させる」(7.4%)の順となっている。

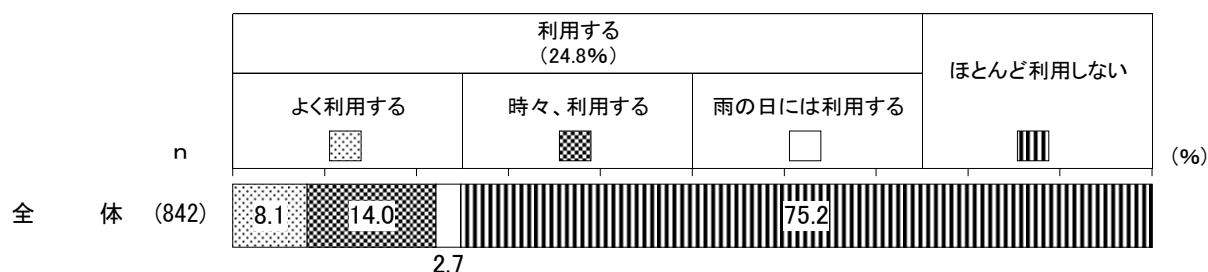
### (2) 水道水の飲用状況



- ・「そのまま飲む」(67.6%)が7割近くを占めている。その他では、「浄水器を使っている」(16.2%)が1割半ば、「沸かしてから飲む」(8.6%)と「市販の飲料水を購入している」(6.2%)がともに1割未満となっている。

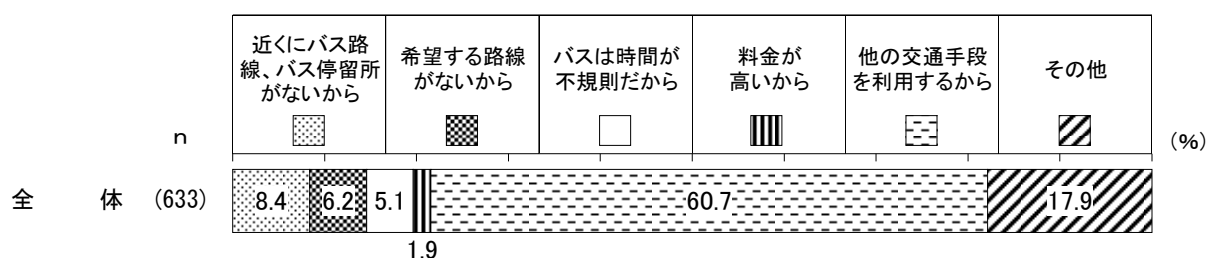
## 5. 日常生活

### (1) バス利用の有無



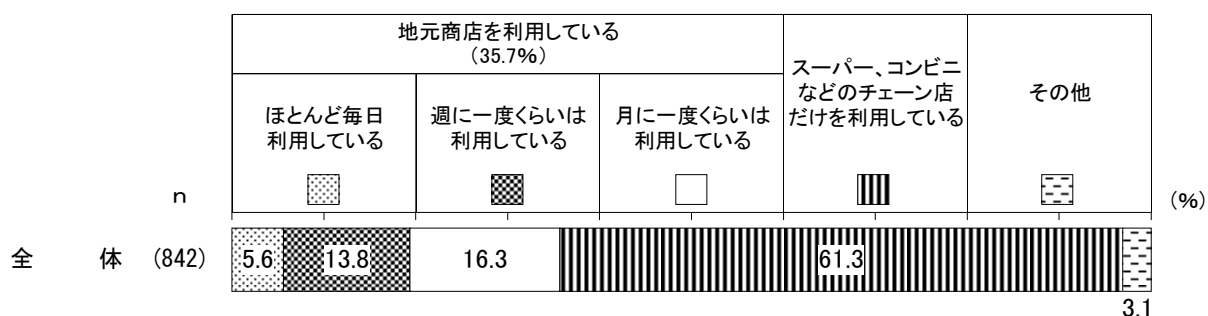
- ・「ほとんど利用しない」(75.2%)が7割半ばを占めている。また、「よく利用する」(8.1%)、「時々、利用する」(14.0%)、「雨の日には利用する」(2.7%)を合わせた『利用する』(24.8%)は2割半ばとなっている。

## (2) バスを利用しない理由



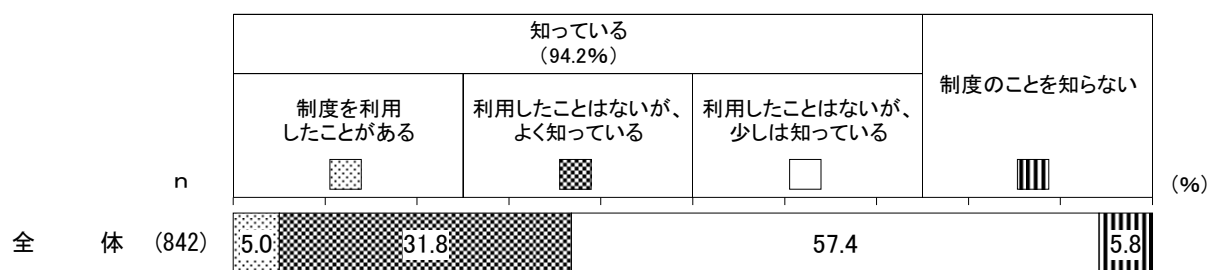
- ・「他の交通手段を利用するから」(60.7%)がほぼ6割を占めている。その他では、「近くにバス路線、バス停留所がないから」(8.4%)、「希望する路線がないから」(6.2%)、「バスは時間が不規則だから」(5.1%)、「料金が  
高いから」(1.9%)の順となっており、いずれも1割未満となっている。

## (3) 地元商店の利用頻度



- ・「スーパー、コンビニなどのチェーン店だけを利用している」(61.3%)が6割を超えている。また、「ほとんど毎日利用している」(5.6%)、「週に一度くらいは利用している」(13.8%)、「月に一度くらいは利用している」(16.3%)を合わせた『地元商店を利用している』(35.7%)は3割半ばとなっている。

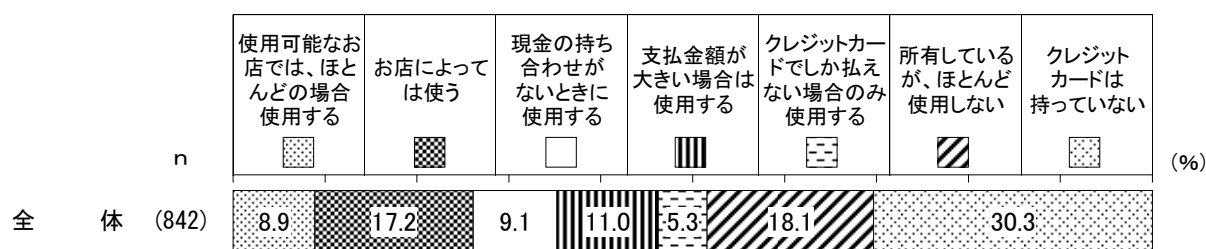
## (4) クーリングオフ制度の認知度



- ・「利用したことはないが、少しは知っている」(57.4%)が6割近く、「利用したことはないが、よく知っている」(31.8%)が3割を超え、「制度を利用したことがある」(5.0%)が1割未満となっている。また、これらを合わせた『知っている』(94.2%)は9割半ばと認知度は高くなっている。



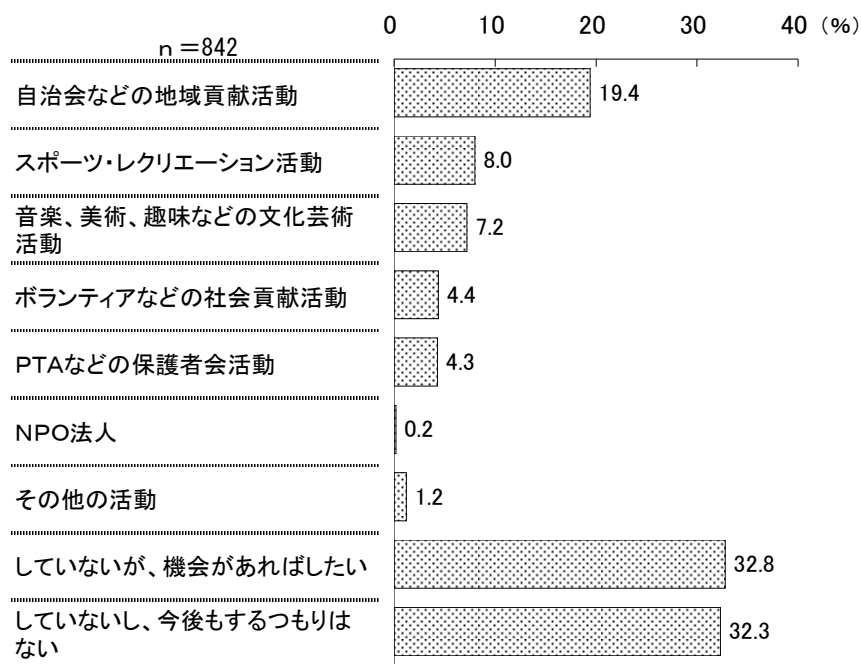
## (5) クレジットカードの利用状況



- ・「所有しているが、ほとんど使用しない」（18.1%）が2割近くと最も多く、次いで「お店によっては使う」（17.2%）、「支払金額が大きい場合は使用する」（11.0%）、「現金の持ち合わせがないときに使用する」（9.1%）などの順となっている。また、「クレジットカードは持っていない」（30.3%）が3割となっている。

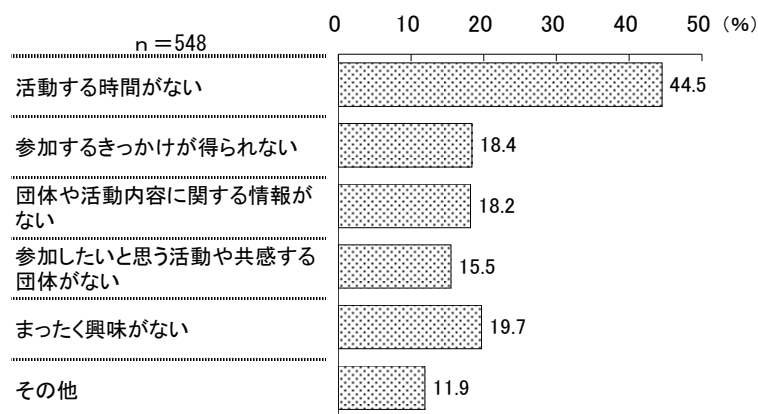
## 6. 地域活動・生涯学習

### (1) 行っている地域活動



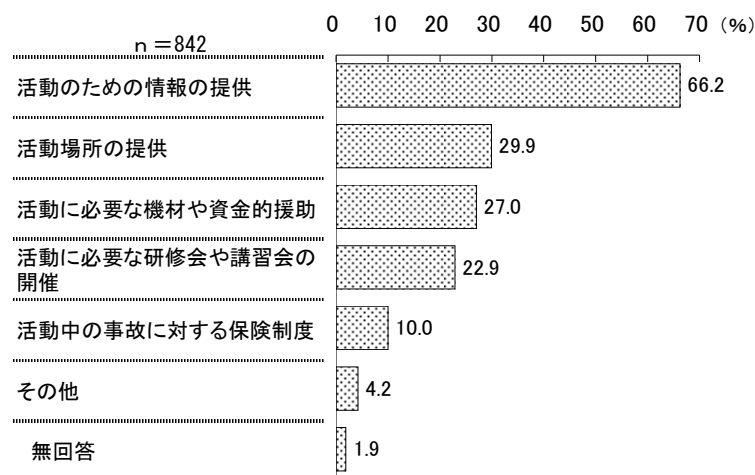
- ・「自治会などの地域貢献活動」（19.4%）がほぼ2割と最も多く、次いで「スポーツ・レクリエーション活動」（8.0%）、「音楽、美術、趣味などの文化芸術活動」（7.2%）、「ボランティアなどの社会貢献活動」（4.4%）、「PTAなどの保護者会活動」（4.3%）、「NPO法人」（0.2%）の順となっている。また、「していないが、機会があればしたい」（32.8%）と「していないし、今後もするつもりはない」（32.3%）がともに3割を超えている。

## (2) 地域活動に参加できない理由



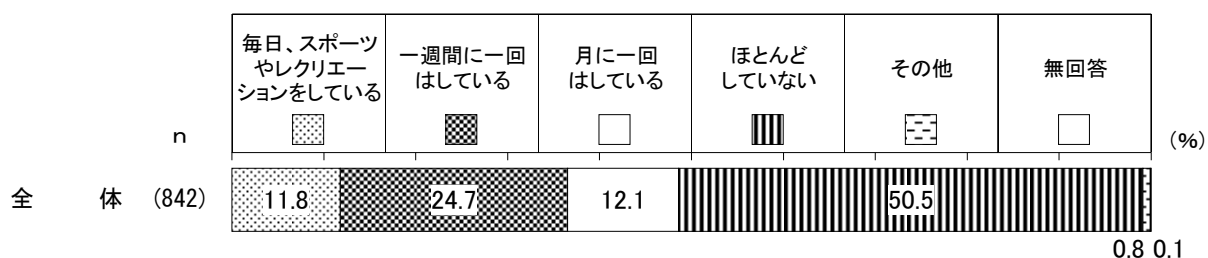
- ・「活動する時間がない」(44.5%)が4割半ばと最も多く、次いで「参加するきっかけが得られない」(18.4%)、「団体や活動内容に関する情報がない」(18.2%)、「参加したいと思う活動や共感する団体がない」(15.5%)の順となっている。また、「まったく興味がない」(19.7%)が2割となっている。

## (3) 市民活動のために市が力を入れるべきこと



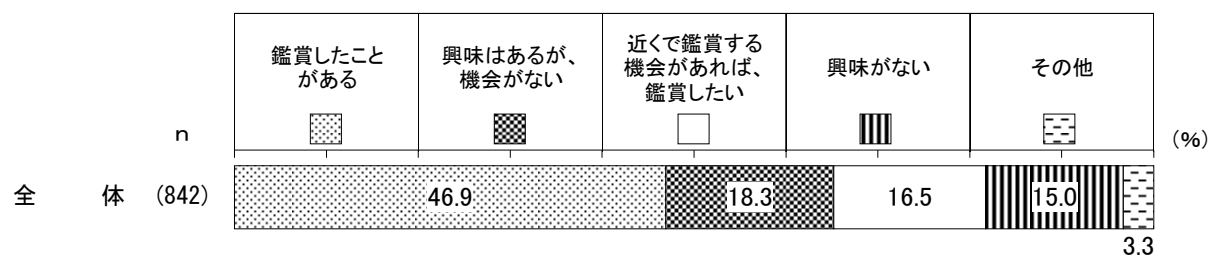
- ・「活動のための情報の提供」(66.2%)が6割半ばと最も多く、次いで「活動場所の提供」(29.9%)、「活動に必要な機材や資金的援助」(27.0%)、「活動に必要な研修会や講習会の開催」(22.9%)、「活動中の事故に対する保険制度」(10.0%)の順となっている。

## (4) スポーツやレクリエーションの頻度



- ・「ほとんどしていない」(50.5%)がほぼ5割を占めている。また、「一週間に一回はしている」(24.7%)が2割半ば、「月に一回はしている」(12.1%)と「毎日、スポーツやレクリエーションをしている」(11.8%)がともに1割を超えている。

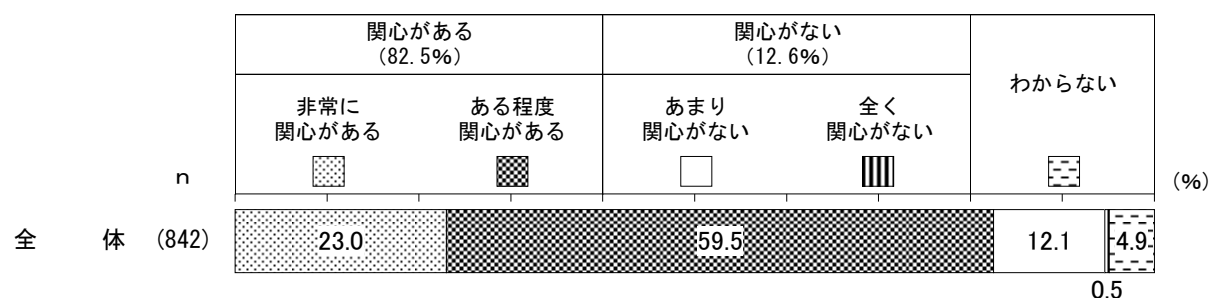
## (5) 音楽・演劇・美術の鑑賞頻度



- ・「鑑賞したことがある」(46.9%)が5割近くとなっている。また、「興味はあるが、機会がない」(18.3%)と「近くで鑑賞する機会があれば、鑑賞したい」(16.5%)がともに2割近く、「興味がない」(15.0%)が1割半ばとなっている。

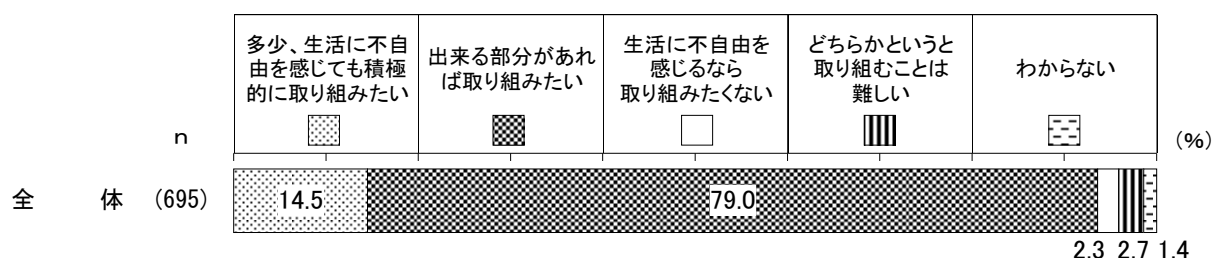
## 7. 環境

### (1) 地球温暖化問題への関心



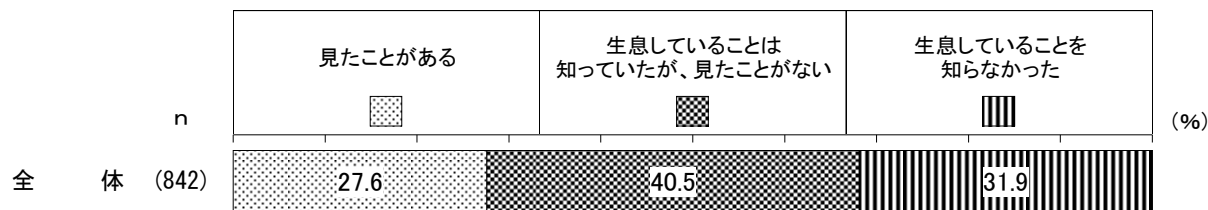
- ・「ある程度関心がある」(59.5%)が6割と最も多く、これに「非常に関心がある」(23.0%)を合わせた『関心がある』(82.5%)が8割を超えている。一方、「あまり関心がない」(12.1%)と「全く関心がない」(0.5%)を合わせた『関心がない』(12.6%)が1割を超えている。

### (2) 地球温暖化防止への取り組み



- ・「出来る部分があれば取り組みたい」(79.0%)がほぼ8割を占めている。その他では、「多少、生活に不自由を感じても積極的に取り組みたい」(14.5%)が1割半ば、「どちらかという取り組みむことは難しい」(2.7%)と「生活に不自由を感じるなら取り組みたくない」(2.3%)がともに1割未満となっている。

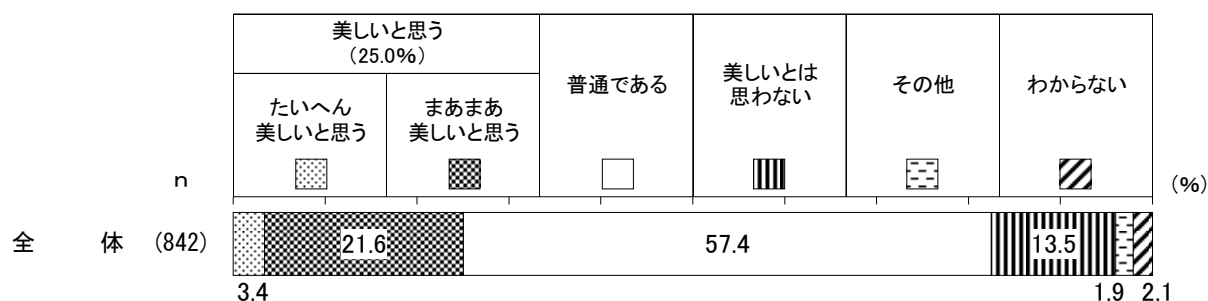
### (3) 昭島でのホテル鑑賞の認知度



- ・「生息していることは知っていたが、見たことがない」(40.5%)がほぼ4割と最も多く、「生息していることを知らなかった」(31.9%)が3割を超え、「見たことがある」(27.6%)が3割近くとなっている。

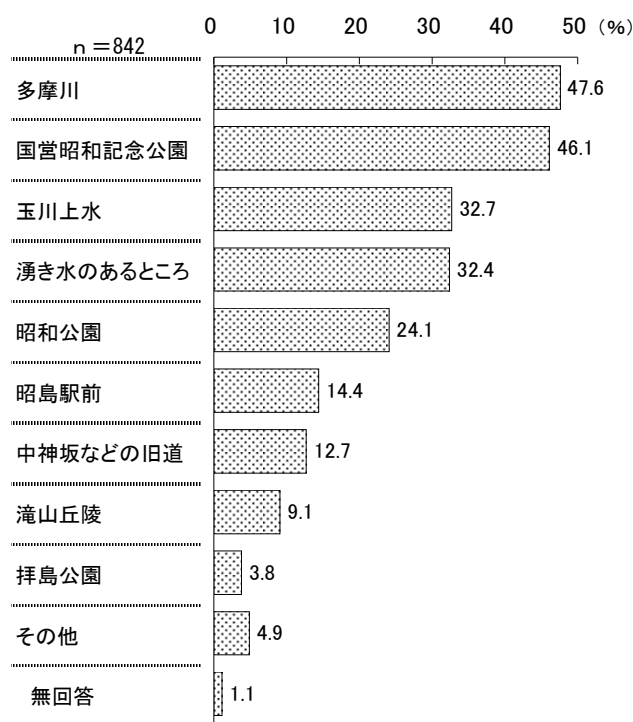
## 8. 都市景観

### (1) 街並みの美しさに対する意識



- ・「たいへん美しいと思う」(3.4%)と「まあまあ美しいと思う」(21.6%)を合わせた『美しいと思う』(25.0%)が2割半ばとなっている。また、「普通である」(57.4%)が6割近く、「美しいとは思わない」(13.5%)が1割を超えている。

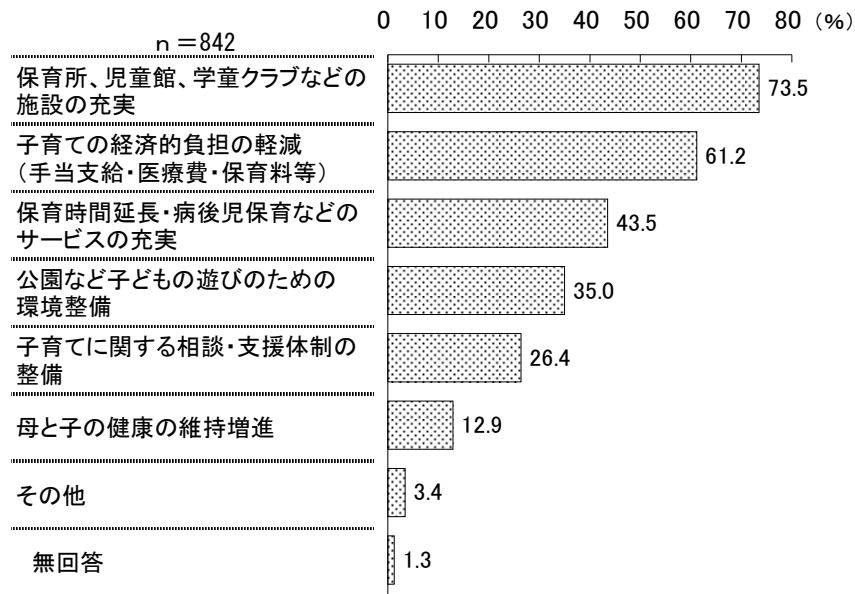
### (2) 昭島らしい街並みや景観



- ・「多摩川」(47.6%)が5割近くと最も多く、次いで「国营昭和記念公園」(46.1%)、「玉川上水」(32.7%)、「湧き水のあるところ」(32.4%)、「昭和公園」(24.1%)、「昭島駅前」(14.4%)などの順となっている。

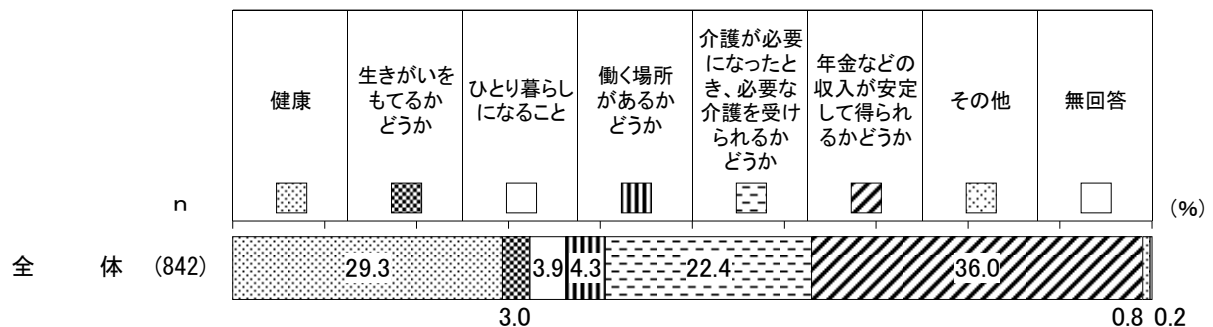
## 9. 少子高齢化

### (1) 子育てをしやすい環境作りに必要なこと



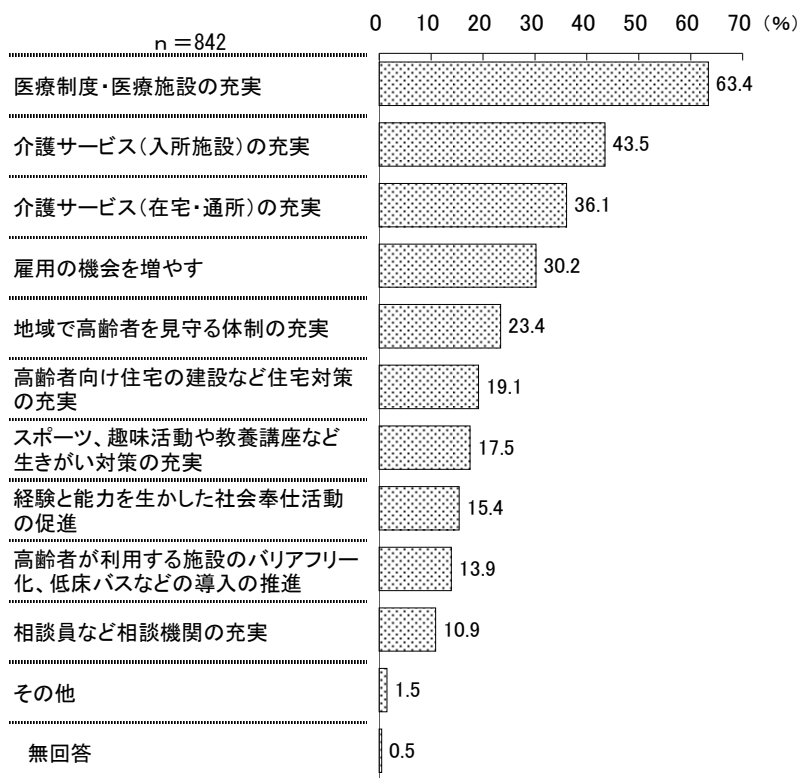
- ・「保育所、児童館、学童クラブなどの施設の充実」(73.5%)が7割を超え最も多く、次いで「子育ての経済的負担の軽減(手当支給・医療費・保育料等)」(61.2%)、「保育時間延長・病後児保育などのサービスの充実」(43.5%)、「公園など子どもの遊びのための環境整備」(35.0%)、「子育てに関する相談・支援体制の整備」(26.4%)、「母と子の健康の維持増進」(12.9%)の順となっている。

### (2) 老後について最も不安を感じること



- ・「年金などの収入が安定して得られるかどうか」(36.0%)が3割半ばと最も多く、次いで「健康」(29.3%)がほぼ3割近く、「介護が必要になったとき、必要な介護を受けられるかどうか」(22.4%)の順となっている。また、「働く場所があるかどうか」(4.3%)、「ひとり暮らしになること」(3.9%)、「生きがいをもてるかどうか」(3.0%)がいずれも1割未満となっている。

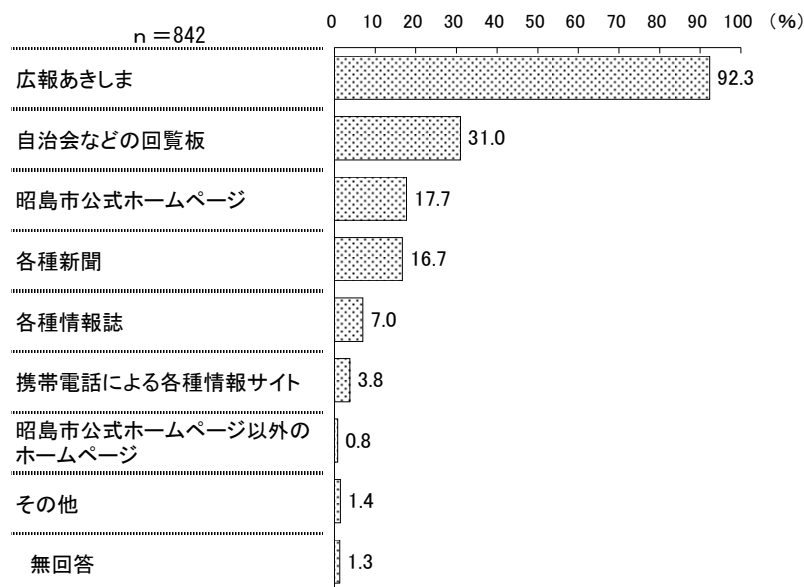
### (3) 高齢者のために重要な施策



- ・「医療制度・医療施設の充実」(63.4%)が6割を超え最も多く、次いで「介護サービス(入所施設)の充実」(43.5%)、「介護サービス(在宅・通所)の充実」(36.1%)、「雇用の機会を増やす」(30.2%)、「地域で高齢者を見守る体制の充実」(23.4%)、「高齢者向け住宅の建設など住宅対策の充実」(19.1%)などの順となっている。

## 10. 広報

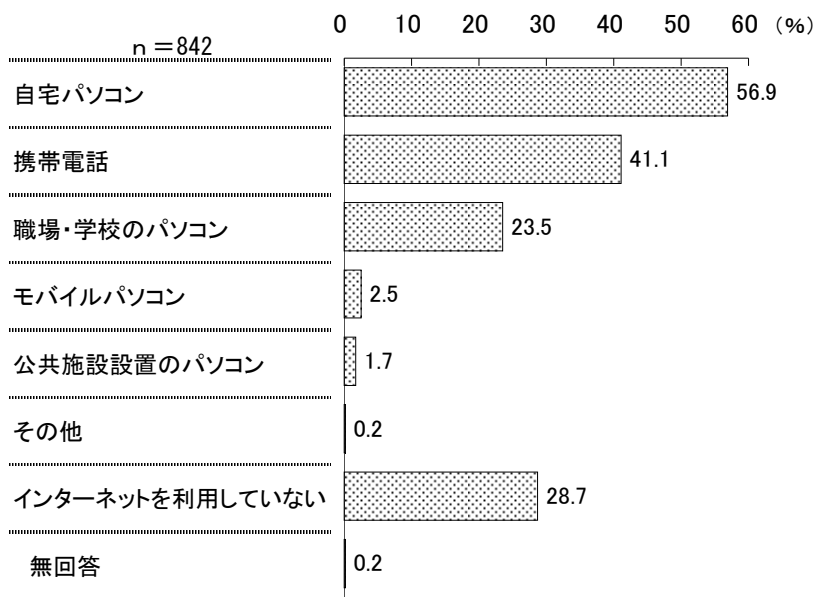
### (1) 市に関わる情報の入手方法



- ・「広報あきしま」(92.3%)が9割以上を占め、ほとんどの方の入手方法となっている。その他では「自治会などの回覧板」(31.0%)、「昭島市公式ホームページ」(17.7%)、「各種新聞」(16.7%)、「各種情報誌」(7.0%)、「携帯電話による各種情報サイト」(3.8%)などの順となっている。

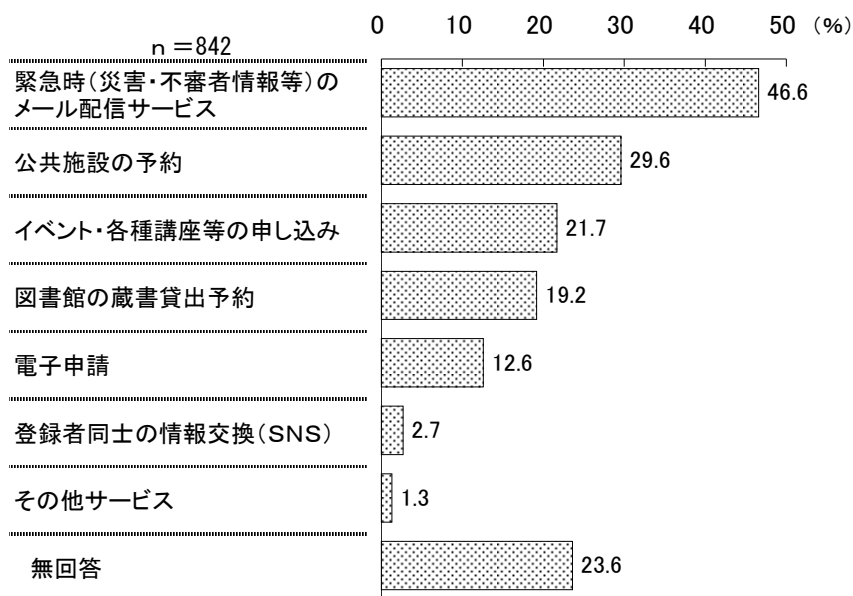
## 11. 情報化

### (1) インターネットの利用有無と利用環境



- ・「自宅パソコン」(56.9%)が6割近くと最も多く、次いで「携帯電話」(41.1%)、「職場・学校のパソコン」(23.5%)などの順となっている。また、「インターネットを利用していない」(28.7%)が3割近くとなっている。

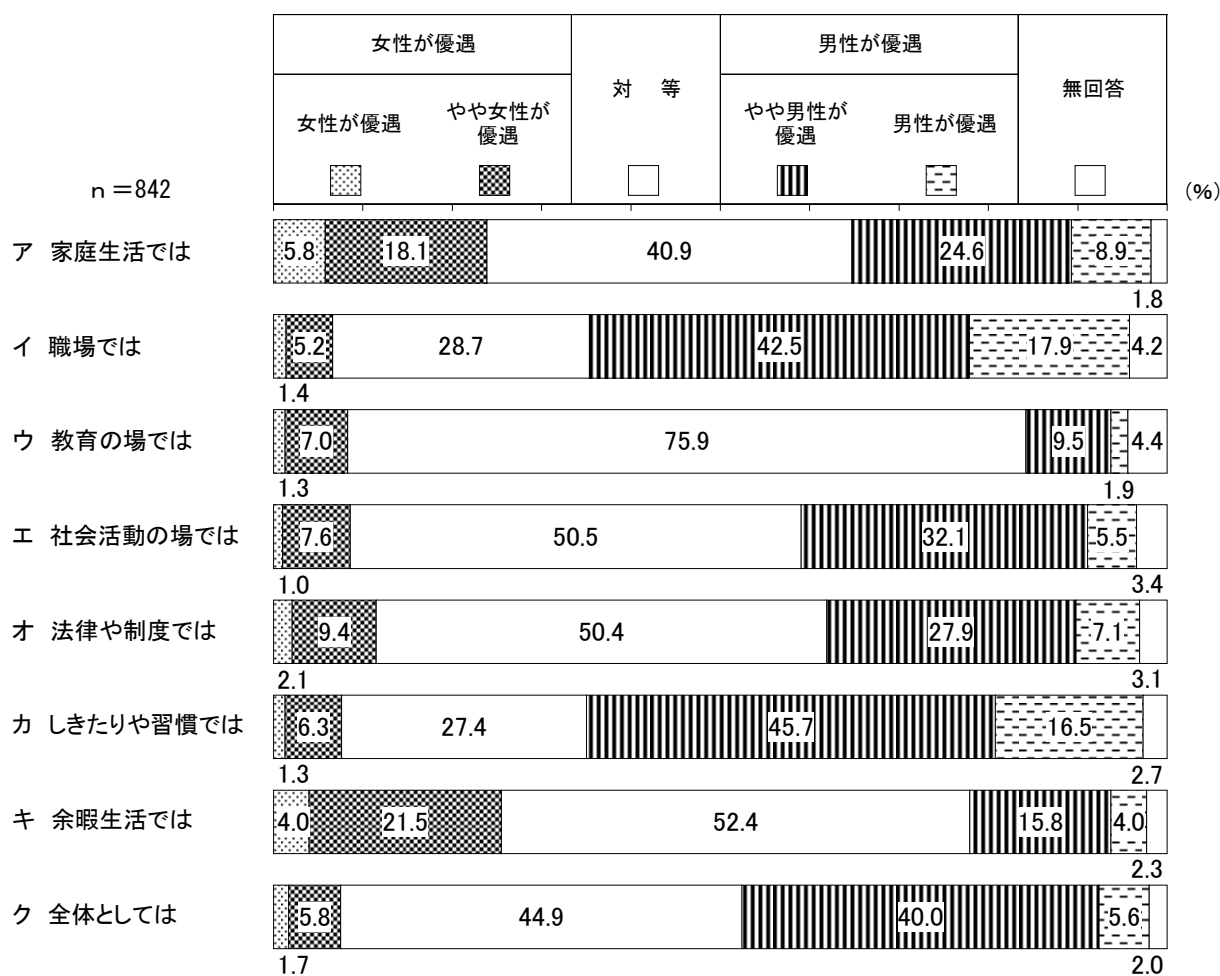
### (2) 自治体提供のインターネット利用サービスの利用状況



- ・「緊急時(災害・不審者情報等)のメール配信サービス」(46.6%)が5割近くと最も多く、次いで「公共施設の予約」(29.6%)、「イベント・各種講座等の申し込み」(21.7%)、「図書館の蔵書貸出予約」(19.2%)、「電子申請」(12.6%)、「登録者同士の情報交換(SNS)」(2.7%)の順となっている。

## 12. 男女共同参画

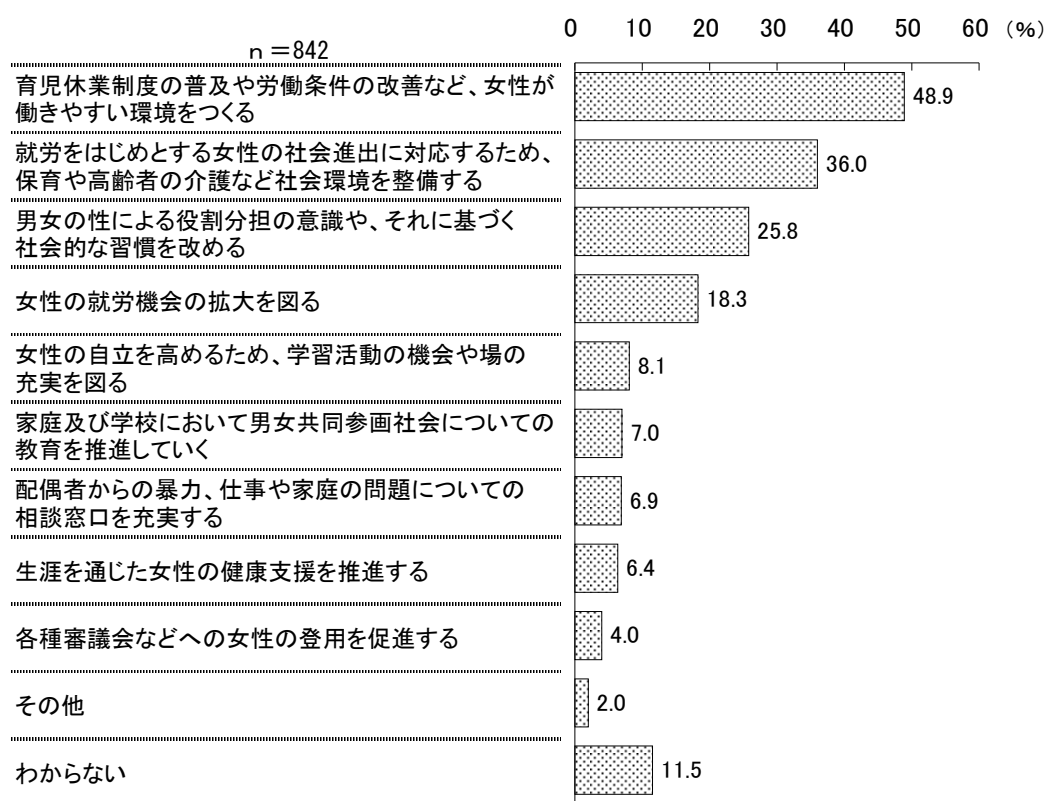
### (1) 男女の地位



- 各分野における男女の地位を聞いたところ、「男性が優遇」と「やや男性が優遇」を合わせた『男性が優遇』は【しきたりや習慣】（62.2%）で6割を超え、【職場】（60.4%）で6割と多くなっている。一方、「女性が優遇」と「やや女性が優遇」を合わせた『女性が優遇』は【余暇生活】（25.5%）でのみ『男性が優遇』（19.8%）より多くなっている。また、『対等』は【教育の場】（75.9%）で7割半ば、【余暇生活】（52.4%）、【社会活動の場】（50.5%）、【法律や制度】（50.4%）で5割以上と多くなっている。



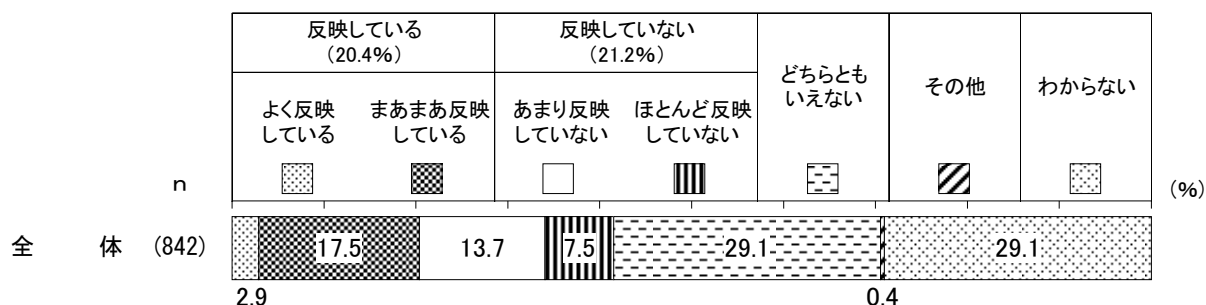
## (2) 女性の社会参画や地位向上に必要なこと



- ・「育児休業制度の普及や労働条件の改善など、女性が働きやすい環境をつくる」(48.9%)が5割近くと最も多く、次いで「就労をはじめとする女性の社会進出に対応するため、保育や高齢者の介護など社会環境を整備する」(36.0%)、「男女の性による役割分担の意識や、それに基づく社会的な習慣を改める」(25.8%)、「女性の就労機会の拡大を図る」(18.3%)などの順となっている。

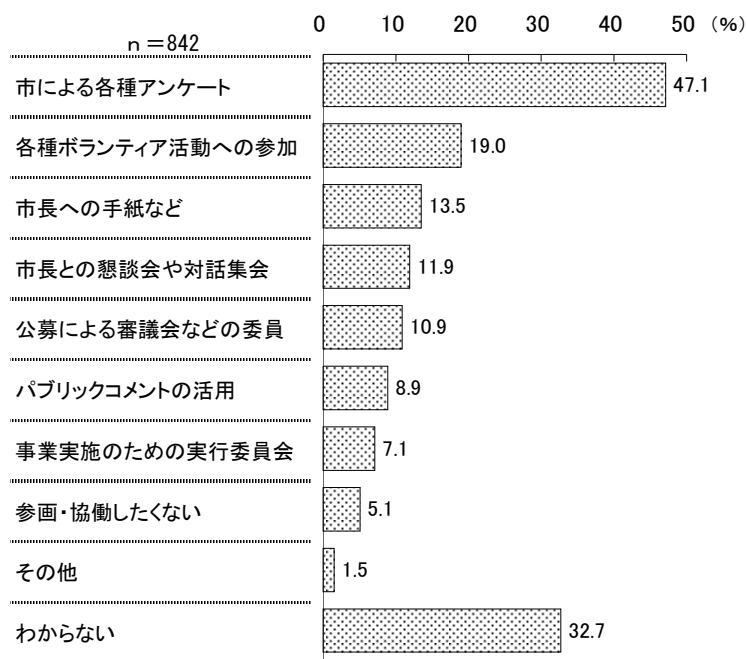
## 13. 市政・市役所

### (1) 市民の声の市政への反映度



- ・「よく反映している」(2.9%)と「まあまあ反映している」(17.5%)を合わせた『反映している』(20.4%)が2割、「あまり反映していない」(13.7%)と「ほとんど反映していない」(7.5%)を合わせた『反映していない』(21.2%)が2割を超えている。また、「どちらともいえない」(29.1%)と「わからない」(29.1%)がともにほぼ3割となっている。

## (2) 市政への参画・協働のための方法



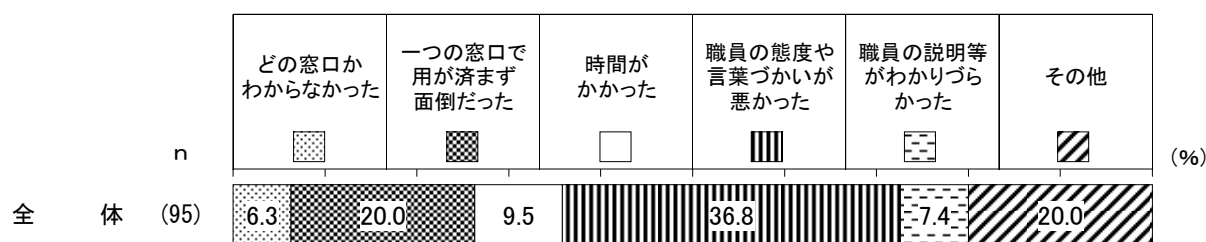
- ・「市による各種アンケート」(47.1%)が5割近くと最も多く、次いで「各種ボランティア活動への参加」(19.0%)、「市長への手紙など」(13.5%)、「市長との懇談会や対話集会」(11.9%)、「公募による審議会などの委員」(10.9%)などの順となっている。

## (3) 市役所の窓口サービス



- ・「普通」(43.0%)が4割を超え最も多く、「良い」(15.1%)と「まあまあである」(16.4%)がともに1割半ばとなっている。また、「悪い」(11.3%)が1割を超えている。

## (4) 窓口サービスが悪く感じた理由



- ・「職員の態度や言葉づかいが悪かった」(36.8%)が4割近くと最も多く、次いで「一つの窓口で用が済まず面倒だった」(20.0%)、「時間がかかった」(9.5%)、「職員の説明等がわかりづらかった」(7.4%)、「どの窓口かわからなかった」(6.3%)の順となっている。

## 昭島市 市民意識調査 概要版

平成 22 年 1 月

発 行 昭島市企画部秘書広報課  
〒196-8511 東京都昭島市田中町一丁目 17 番 1 号  
電 話 042-544-5111 (代表)

実 施 株式会社エスピー研  
〒102-0072 東京都千代田区飯田橋三丁目 11 番 20 号 SP ビル  
電 話 03-3239-0071 (代表)